

(その 150) 頼りにしてます 暮らしの相談センター (2018.3 月発行)

膝関節症の術後の経過が思わしくなく杖を頼りに歩いていましたが、ある朝新聞を取りに行き、家に入ろうとしたところ足が突然動かなくなり、その場にしゃがみこんだままどうすることもできなくなってしまいました。そして救急車で病院に行くはめになってしまいました。

こんなことがきっかけとなり、年齢も 85 歳となっていたので、これからの生活について考えてゆこうと思い、まず身の整理から始めることにしました。

相談する場所があった

そんな時、毎月ポストに入れていただき無意識に読んでいた「暮らしの相談センターだより」でした。

すぐ所長である宮原さんに電話をして相談にのってもらいました。「一人暮らしであることから前述のような事態がある場合どうしたらよいか」と相談したところ「信頼できる友人に任意後見契約の受任者になってもらうこと」とのことです。すぐに、新婦人の仲間 2 人に受任者をお願いし公証役場に行き公正証書を作成しました。

市の福祉にお願いして緊急通報システムを設置してもらい、気になっていた本も全部整理してもらうなど短い期間に話が進んでゆきました。これも私の足

が悪いためすべてのお願いを進めてくださいました。その対応の速さにびっくりしてしまいました。

これから先、自分でやることはたくさんあると思いますが「暮らしの相談センター」を頼りにしてゆこうと思いました。頼れるところができても私も安心して暮らしてゆけます。